

冬の間、田や水路で乾燥に耐えていたマルタニシは、水が入ると活動し始め、泥底を滑るように動いていきます。全国的に見られる普通種ですが、水路のコンクリート化やトラクターの導入が進んで、以前に比べると数が減っています。

本種は丸みを帯びた貝殻を持ち、卵胎生で夏に20〜40個の子貝を産みます。また、ずいぶん昔から食用としても利用されてきました。厚木市の飯山観音では、参詣者がタニシの佃煮を土産物として購入したと伝わります。

近年、イネの被害が伝えられる通称ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）は、全くの別種です。



▲ 蓋を閉じて乾燥に耐える



▲ 水中で吻（口）や触覚を伸ばす



▲ 死んだ貝殻にも子貝が見える

おいしい自然園園長 一寸木筆

【おいしい自然園 HP】



▲大井町の動植物や虫、石、自然観察会の結果などを掲載しています。

【自然NOWへの投稿】



▲町内の身近な自然情報をお待ちします。  
※撮影は横位置で